

学校では、学びがいっぱい！

○確かな学び、豊かな心、丈夫な体

確かな学びの力、豊かな心、丈夫な体の子どもを育てる。

○学び合う楽しさ、高め合う喜び

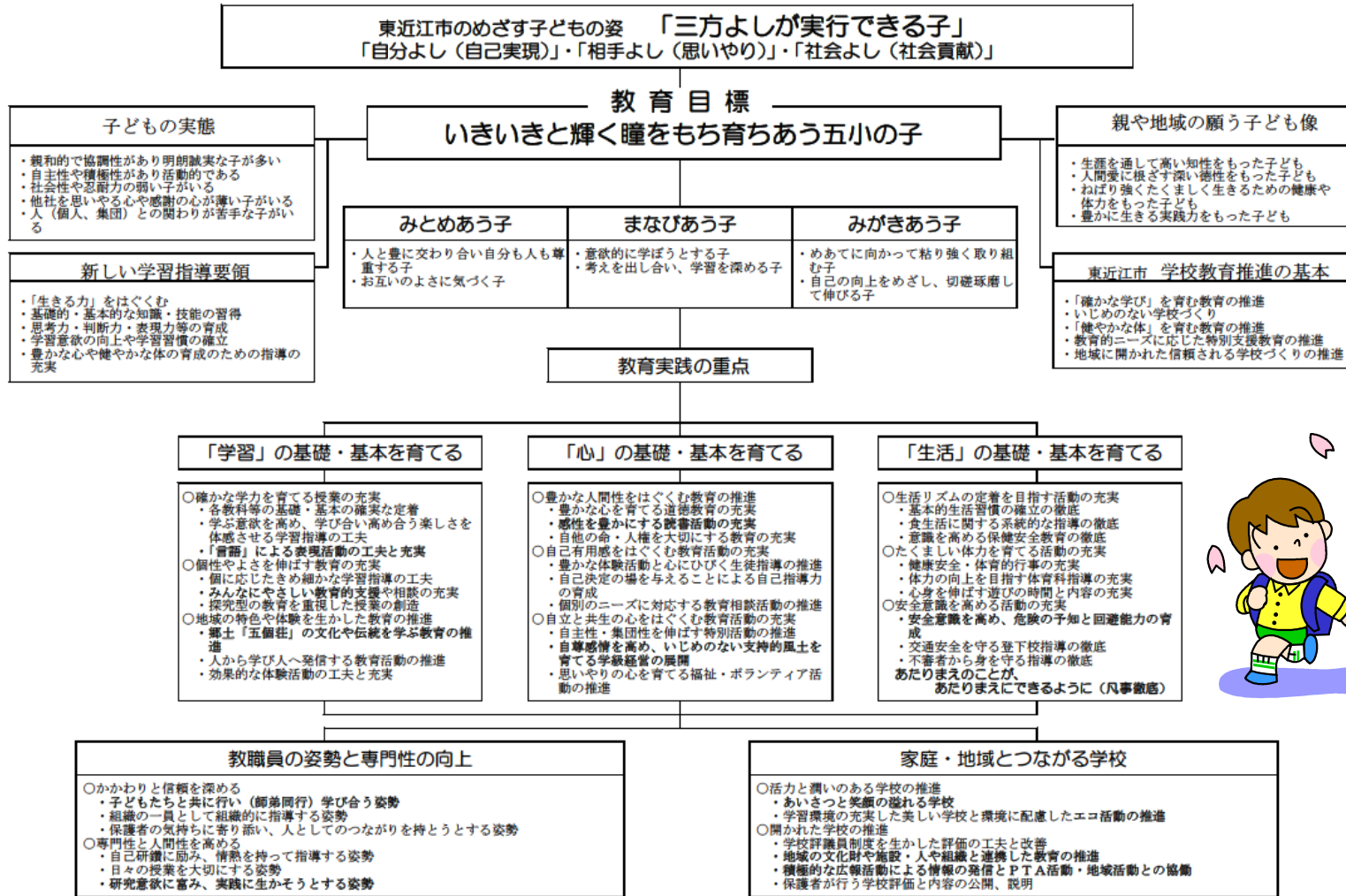
学び合う楽しさを知り、夢と希望をもって生きる子どもを育てる。

○自分大好き、仲間大好き

自分を大切にし、他を思いやり互いに高め合う子どもを育てる。



平成25年度の学校運営について



大規模校のよさを生かした学年・学級経営の推進で、「生きる力」の基礎・基本を育てる

2. 学校運営の具体的な視点と内容

① あいさつ(朝のスタートは、あいさつから)

- ・あいさつがきちんとできることは相手の思いを能動的に受け止めることであり、自分の気持ちや考えを主体的に相手に返すことである。
- ・学力の向上につながるためには、自分の思いや考えを相手に伝えることであるし、相手の考えや思いを聞くことである。そのことがきちんとできたなら、学力は定着するに違いない。

「おはよう」の3原則

- (1)おはようは、笑顔づくりの第1歩
- (2)おはようは、目を見てにっこり元気よく
- (3)おはようは、人より先に自分から

- ・最終目標は、「おじぎ」をしてあいさつのできる子になればいいなあ。



平成25年度の学校運営について

② 凡事徹底(あたりまえのことが、あたりまえにできるように)

- ・生活リズムの確立や規範意識、しつけやマナーの育成など基本的生活習慣の確立が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の土台である。
みんなで、「当たり前のことを、バカみたいに、きちんとやる」
いわゆる『凡事徹底』をしたいものである。
このことが、学力の向上の基礎にある。
- ・また、私たちも、「子どもたちへ声かけをする」「愛情をもって、ほめる・叱る」「情熱、使命感を忘れない」「常に教師が率先垂範する」など、みんなで、「当たり前のこと」が「当たり前」にできる教師でありたい。



平成25年度の学校運営について

③ この校舎で学習できることに感謝を！（すばらしい校舎をいつまでも大切に）

- ・新校舎の開校式で、山田校長は「きみたちのお父さん、お母さんも使った旧校舎は37年の歴史がある。同じように、きみたちが大人になり子どもが通うようになるまで、この新校舎を大切に使おう。建設に関わったすべての人たちに感謝し、学習に励んでほしい」と挨拶された。また、これを受けて児童が「いつまでも、きれいに大切に使います」と述べた。
- ・県下の学校を探しても、いや全国の学校を探しても、このような施設・設備が整った学校は、そうあるものではありません。こどもたちが、この学校で学習できることに感謝できる子どもたちであってほしいと思います。
中には、帰る時に、校門で一礼する子があっても良いのでは・・・。



平成25年度の学校運営について

④ 地域を生かした学習 (五個荘の歴史と文化を学び、郷土人としての誇り)

- ・五個荘は近江商人(五個荘商人)発祥の地であり、商人屋敷のある金堂地区や近江商人博物館などがありながら、それらを生かした特色ある学習活動が十分に行われていない。

近江商人の精神としての、

- ・三方よし(売手よし、買手よし、世間よし)
- ・不撓不屈(強い意志をもって、どんな苦労や困難にもくじけないこと)
- ・勤勉(仕事や勉強などに、一生懸命に励むこと)
- ・儉約(むだを省いて、出費をできるだけ少なくすること)
- ・正直(正しくて、うそや偽りのないこと)
- ・堅実(しっかりしていて、確実なこと)
- ・挨拶 などは、学校教育においても大切なことである。



- ・また、五個荘を訪れる観光客との交流を活用することによって、言語力のアップやコミュニケーション力の向上、積極性の育成などにつながることになる。
 - ・子どもたちによる観光ボランティア
 - ・近江商人博物館の子ども学芸員
 - ・金堂地区や修学旅行先でのあきんど体験

平成25年度の学校運営について

⑤ みんなにやさしい教育(特別支援教育は特別なものではない)

- ・「特別支援教育」とは、確かに、“他の子とちょっと違った工夫が必要”という意味では「特別」なのかもしれない。しかし、特別支援教育は、“一人ひとりを大切にし、より丁寧で、その子が安心できる(困らないですむ)指導と教育”ではないだろうか。
- ・特別支援教育は特別支援学級だけのものではなく、すべての子どもたちに当たり前に行われるべきものであって、特別なことではないし、特別なことにしてもいけない。
- ・みんなにやさしい教育(ユニバーサル教育)を五個荘小学校の教育で推進していくことは、ごくあたりまえのことである。

